

次に、表2-5-2は、「日常の安全確保の取り組み」と犯罪不安感(町丁目単位の平均値)との関連(相関係数)を示したものである。まず、ひったくりにあう不安感については、「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」との間で、-.20の相関係数が得られ、ひったくりに対する不安感の低い地域ほど、地域住民が協働して安全確保のために積極的に取り組む傾向が部分的に見いだされる。同様に、ちかんにあう不安感については、「外出するとき、近所の人や管理人に一声かける」「近所の人と防犯パトロールをする」「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」のそれぞれとの間で、絶対値が.22以上の負の相関係数が得られ、ちかんに対する不安感の低い地域ほど、地域住民が協働して安全確保のために積極的に取り組む傾向が示されている。図2-5-2には、ちかんにあう不安感の程度と、「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」への回答の地域的な分布をまとめた。なお、「不審な人物を見かけたら、近所の人に注意を促す」と「近所の人と地域の安全について話し合う」については、バンダリズムに対する不安感あるいはひったくりに対する不安感との間で絶対値.20以上の正の相関係数が出ているが、これはバンダリズムやひったくりの被害が多発する地域で対処行動として住民の協働活動が生じていることを示唆していると考えられる。

6. 地域内の安全確保の取り組み

表2-6-1と表2-6-2は、住民の目から見た地域内の組織的な安全確保の取り組みと治安状況との関連(相関係数)を示したものである。

表2-6-1と表2-6-2において共通して示された、治安状況以外の変数の内容は以下の通りで、いずれも町丁目単位で回答者の回答を平均したものである。

「警察の情報提供」・・・警察の地域住民に対する情報提供がどの程度十分か、あるいは迅速かを以下の4項目で尋ねた。1) 地域内の具体的な犯罪および事故の発生状況に関する情報提供(が十分)、2) 具体的な犯罪被害防止、事故防止の方法に関する情報提供(が十分)、3) 住民が行っている地域の安全を守る活動の状況に関する情報提供(が十分)、4) 地域住民に対する警察の情報提供が迅速。回答選択肢は、1～3までが「まったく十分」から「まったく十分でない」までの4段階に「なんともいえない」を加えた5件法、4では「非常に迅速」から「まったく迅速でない」までの4段階に「わからない」を加えた5件法であり、肯定的な回答の方をプラスに得点化して4項目の合計点を用いた。

「青少年の非行を防止するための環境浄化活動」「地域住民による地域内のパトロール」「警察官による地域内のパトロール」「警察が住民の要望や意見を知ること」「地域環境に対する自

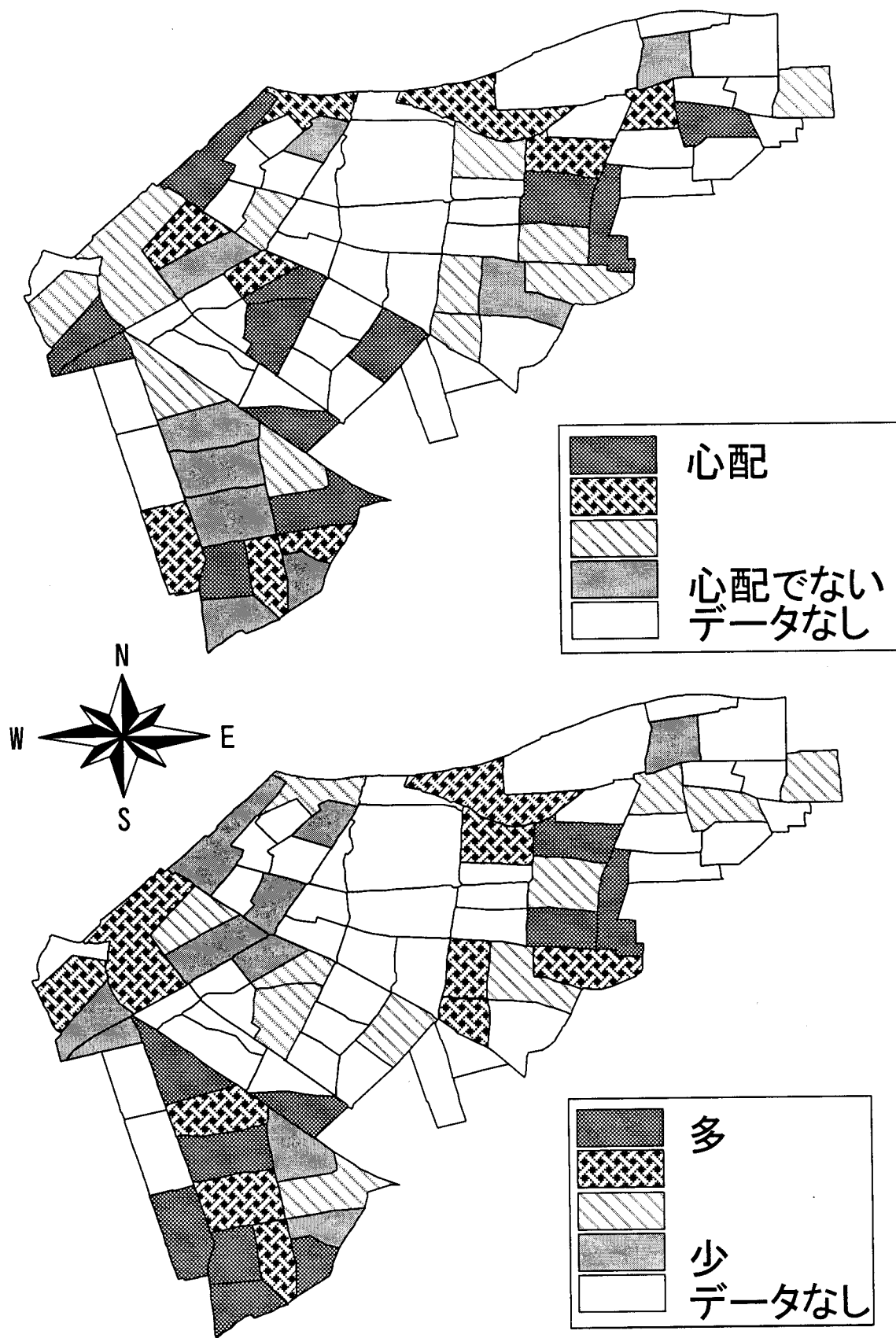


図2-5-2 性的犯罪の不安感(上段), 地域安全活動への参加(下段)

治体の働きかけ」・・・いずれの項目も、地域の犯罪や非行の防止という点から見て、どの程度十分であるかを、「まったく十分」から「まったく十分でない」までの4件法で尋ね、肯定的な回答の方をプラスに得点化した。

まず、「地域内の安全確保の取り組み」と犯罪発生との関連（相関係数）を示したのが、表2-6-1である。まず、ひったくりの認知件数については、「地域内の安全確保の取り組み」の6項目すべてとの間で、絶対値.31以上の負の相関係数が得られ、ひったくりの認知件数が少ない地域ほど、組織的な安全確保の取り組みが図られていることが示されている。図2-6-1には、ひったくりの認知件数と「地域環境に対する自治体の働きかけ」への回答の地域的な分布をまとめた。なお、自己報告によるひったくりの被害については、いずれの項目とも絶対値.20以上の相関係数は得られなかった。一方、自己報告によるバンダリズムの被害については、「警察の情報提供」との間に-.20の相関係数が得られ、バンダリズムの自己報告被害が少ない地域ほど、安全確保に関わる警察の情報提供が良好である傾向が見いだされる。自己報告によるちかんの被害については、地域内の安全確保の取り組みとの間にほとんど関連は見られない。

表2-6-1 地域内の安全確保の取り組みと犯罪の認知・被害状況

	ひったくり 認知件数 (人口千 人あたり)	居住地域での犯罪被害 (過去5年間)		
		ひったくり	バンダ リズム	性的犯罪
警察の情報提供	-0.31	-0.12	-0.20	-0.11
青少年の非行を防止するための環境浄化活動	-0.31	-0.01	0.15	-0.03
地域住民による地域内のパトロール	-0.52	0.08	0.10	-0.05
警察官による地域内のパトロール	-0.47	0.00	0.07	-0.06
警察が住民の要望や意見を知ること	-0.36	-0.16	-0.07	-0.06
地域環境に対する自治体の働きかけ	-0.52	0.01	0.09	0.05

表2-6-2 地域内の安全確保の取り組みと犯罪被害に対する不安感

	犯罪不安感		
	バンダ リズム	ひったくり	性的犯罪
警察の情報提供	-0.30	-0.25	-0.33
青少年の非行を防止するための環境浄化活動	-0.31	0.00	-0.16
地域住民による地域内のパトロール	-0.27	-0.02	-0.33
警察官による地域内のパトロール	-0.44	-0.13	-0.37
警察が住民の要望や意見を知ること	-0.50	-0.19	-0.45
地域環境に対する自治体の働きかけ	-0.46	-0.02	-0.32

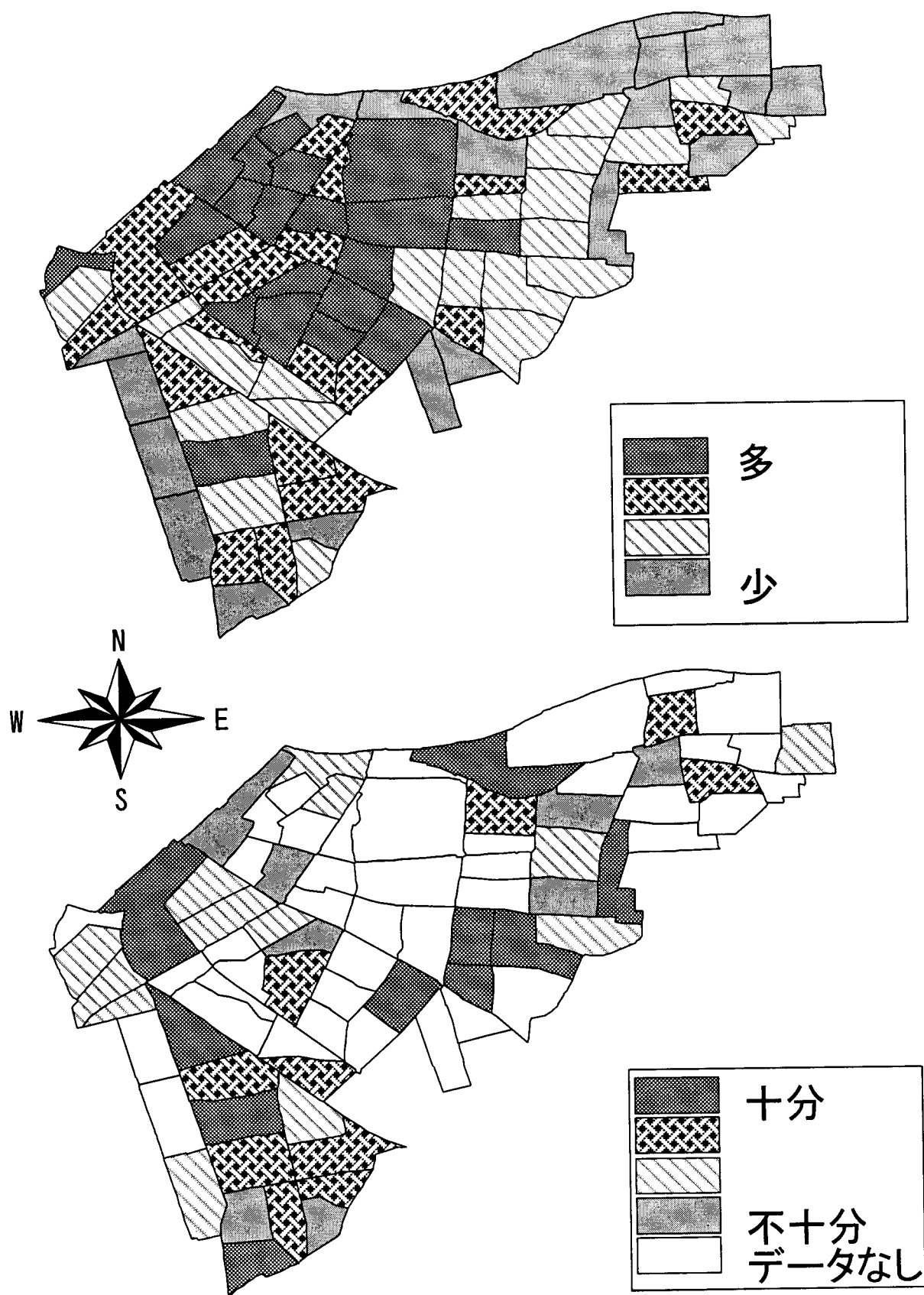


図2-6-1 ひったくりの認知件数(上段), 地域環境に対する自治体の働きかけ(下段)

次に、表2-6-2は、「地域の安全確保の取り組み」と犯罪不安感(町丁目単位の平均値)との関連(相関係数)を示したものである。まず、バンダリズムにあう不安感については、6項目全てとの間で、絶対値が.27以上の負の相関係数が得られ、バンダリズムに対する不安感の低い地域ほど、組織的な安全確保の取り組みが図られていることが示されている。図2-6-2には、バンダリズムにあう不安感と「警察が住民の要望や意見を知ること」の回答を町丁目ごとにまとめて図示した。同様の傾向はちかんにあう不安感についても見られ、「青少年の非行を防止するための環境浄化活動」を除いた5項目で、絶対値が.32以上の負の相関係数が得られ、ちかんにあう不安感の低い地域ほど、組織的な安全確保の取り組みが図られていることが示されている(ちかんにあう不安感と「警察官による地域内のパトロール」の地域的関連については図2-6-3を参照)。一方、ひったくりにあう不安感については、「警察の情報提供」との間に-.25の相関係数が得られ、ひったくりに対する不安感の低い地域ほど、安全確保に関わる警察の情報提供が良好である傾向が見いだされる。

7. 地域の物理的環境

表2-7-1と表2-7-2は、地域の物理的な住環境の状況と治安状況との関連(相関係数)を示したものである。

表2-7-1と表2-7-2において共通して示された、治安状況以外の変数の内容は以下の通りで、いずれも町丁目単位で回答者の回答を平均したものである。

「車道と歩道が区別されていない道路」「脇道や行き止まりの多い道路」「街灯が足りないため、夜暗い道路」「街灯が足りないため、夜暗い駐車場・駐輪場」「周囲から見通しが利かない駐車場・駐輪場」「樹木や植栽が邪魔して見通しの悪い道路」「樹木や植栽が生い茂って、周囲から見通しが利かない公園」「街灯が足りないため、夜暗い公園」「雑草が生い茂って、周囲から見通しが利かない草むら・空き地」・・・いずれの項目も、住んでいる地域にどの程度あるかを、「多い」「少しある」「ほとんどない」の3件法で尋ね、多く存在する方をプラスに得点化した。

まず、「地域の物理的環境」と犯罪発生との関連(相関係数)を示したのが、表2-7-1である。まず、ひったくりの認知件数については、「樹木や植栽が生い茂って、周囲から見通しが利かない公園」「街灯が足りないため、夜暗い公園」「雑草が生い茂って、周囲から見通しが利かない草むら・空き地」の3項目各々との間で、絶対値.20以上の負の相関係数が得られた。これは見通しが悪かったり、夜暗い公園や空き地で、ひったくりが発生しにくいことを意